

日本発アプライアンス世界へ

XML

専用

B2B

## サーバーの可能性

現在、「アプライアンス」と呼ばれる、機能をしぼりこんだネットワーク機器が注目を浴びている。サーバー分野では、ウェブやストレージ専用のアプライアンスサーバーが次々と出荷され、コンシューマー向けには、インターネットを手軽に利用できるウェブアプライアンスと呼ばれる製品が発表されている。そうした中で、インフォテリアは企業がB2Bにすばやく参入できることを目指したXMLサーバーを発表した。



「Asteriaはビジネスの星々をつなぐ星座」と語るインフォテリアの平野洋一郎社長。



ソニーのネット調達システム「SPIRIT」にAsteriaを採用することを発表するソニーの田谷善宏氏。

## 姿を現したB2B専用アプライアンス

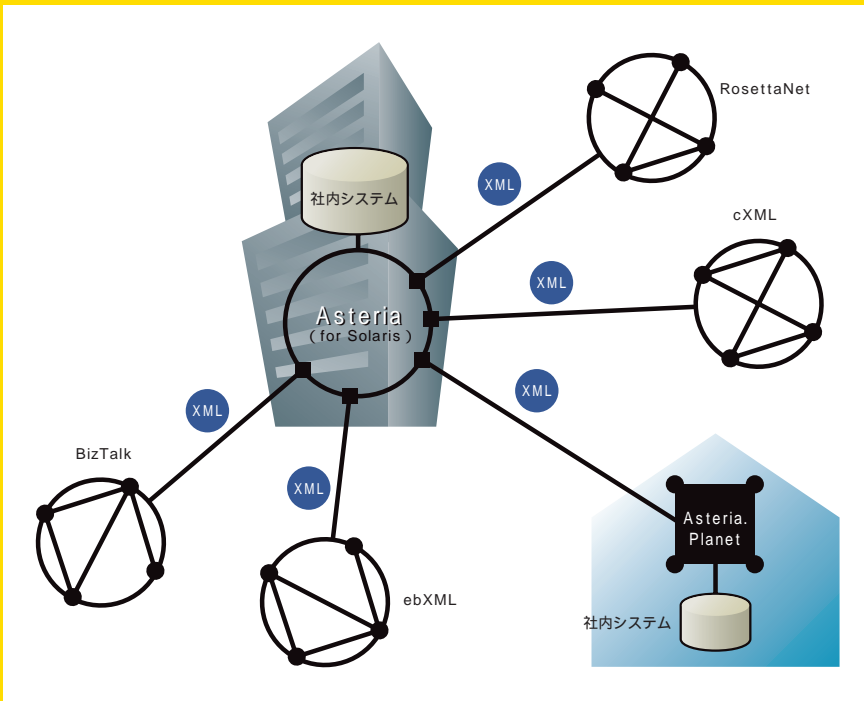
XML関連ソフトウェアメーカーのインフォテリアは、B2Bサーバーソフトウェア「Asteria」(アステリア)を発表した。近年、B2Bの実現にはXMLがなくてはならない要素だという認識が一般的になりつつあるが、Asteriaは「XMLネイティブ」をうたったサーバーだ。インターネットを通じて企業間でXMLデータを送受信し、社内のデータベースやアプリケーションサーバーとの間の橋渡しを行う。同時にこのサーバーをLinuxベースのハードウェアに収めた「Asteria Planet」も発表された。世界でも例のないB2B専用のアプライアンス製品で、外部には電源とネットワークポートのみを持つ。

接続先無制限のAsteriaの価格が2400万円以上、接続先が2つに限られたAsteria Planetは95万円以上だ。アプライアンス製品のターゲットは、特定の大企業の調達システムにつないで製品を納入するような中小企業になる。

Asteriaの発表会では、ソニーがVAIOなどの部材調達システムのためにAsteriaを採用することが発表された。ソニーでは電子部品のビジネスプロセス標準であるRosettaNetを使っている。Asteriaはまず、B2Bの実用化がもっとも進んでいる電子機器メーカーを中心に使われていくようだ。

Jump [www.infoteria.com](http://www.infoteria.com)

# 企業間取引のための「XMLルーター」



現在B2BのためにXMLのさまざまな標準化が進められている。コンピュータ業界のコンソーシアムRosettaNet、アリバ社のcXML、コマースワンのxCBL、マイクロソフト社が中心となるBizTalk、そして世界規模のXML推進組織OASISのebXMLがある。Asteriaはこうした各種のビジネスプロトコルを“プラグイン”として組み込むことで機能する。動きの速い標準化動向に柔軟に対応しながら、XMLのパワーを企業に導入できるわけだ。中小企業もAsteria Planetによってビジネスプロトコルの標準を利用できるようになり、マーケットに安いコストで参加できるようになる。

ちょうどTCP/IPネットワークのバックボーンにルーターがつながっているように、XMLが流れるマーケットプレイスに接続されたアプリケーションがあらゆるところに置かれるのが将来の姿になるのだろうか。

## 「ビジネスプロトコルはカプセル化される」平野洋一郎社長に聞く

Asteria PlanetにはCD-ROMドライブが付いていると聞きましたが？

**お** 客さんにはCD-ROMは見えないようにしています。CD-ROMからブートして動きますが、内部で動いているLinuxなどは気にせず使えます。ビジネスプロトコルというのは更新されていきますから、インストールし直さなくてもCD-ROMを入れ替えればバージョンアップできる構造になっています。

**F** AXで受発注するようリアルワールドでやっているB2Bと同じ感覚で使えるものでないと、中小企業には使えない。一方、今のB2Bサーバーはすごく複雑です。このギャップを埋めるために作り直しました。OSやソフトの相性を気にしなくていいこと、ほかのものとの干渉を受けないことが必要です。既存の環境との相性をテストしなくても独立して必ず動くという形を作りたかった。目指すところは、ルーターのように接続試験をしなくても、標準的なプロトコルが搭載されていて、箱につながりさえ

ればちゃんと面倒を見ますよということ。ビジネスプロトコルがどんどん標準化されていくと、カプセル化されて、必ずAsteria Planetのようなブラックボックスに進みます。

そうしたビジネスプロトコルは今後どれがメインになるでしょうか？

**そ** れはわかりませんが、スケジュール的にはまずRosettaNetが来ます。まずは電子商取引を自らやってみせなきゃならない電気電子業界が実装しているわけですから。次は机やコピー紙のようなMRO（間接材）という違う領域をやっているアリバが2001年頭くらいに本格化してきます。3番目にコマースワンやBizTalkが来るでしょうが、タイミングがebXMLと重なります。最後の3つはあらゆる領域を扱うものなので、統合されるかもしれないですね。

XMLはビジネスプロトコルを中心に進んで

いくのでしょうか？

**い** え、XMLから見ると、B2Bはワンオペゼムです。ドキュメント的なものや、CADなどのデータ、政府系の文書など、世の中はすべてXML化しますが、インフォテリアが応用領域で提供するものは、B2Bに特化したAsteriaだけです。B2B以外の領域は技術的に支援していくツールを作ります。

**B** 2Bというのは、今流行して騒がれているというだけではなくて、非常に大きな波だと思えます。今後10年くらいはいろいろところに浸透して、あらゆるものを変えていくものであり、大きな意義のあるテーマです。

海外への展開は？

**2** 000年内にアメリカで発表して売っていきます。Asteria Planetに関してはリリースを出したのですが、いったい何なんだという問い合わせがずで来ています。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)